

調査結果に基づく分析と今後の方向性（小学校）

【国語（小学校）】について

「漢字を文の中で正しく使う」問題など「知識及び技能」に関する問題では、一定の成果がある一方で、「書くこと」や「読むこと」の領域において課題がみられます。文章を書くことを通して、読み手に分かりやすくなるよう心がけたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識するとともに、推敲の重要性と必要性を実感できる指導につなげていきます。また、文章読解を通して、その全体像から読み手に与える表現の効果について、自分の考えがもてるような活動から読解力の定着を図ります。

【算数（小学校）】について

「目的に合った数の処理」などの基本的な知識・技能は、一定の定着がみられます。その一方で、「図形を構成する要素」や「伴って変わる二つの数量」などに着目して考察することに課題がみられます。「図形」領域においては、その図形の性質を基にして辺や角の構成に着目する学習や、「変化と関係」領域では、図や表を用いて二つの数量関係を表す活動を充実させることで、各領域の定着を図ります。

また、自らの意見を表現・発表する活動から、自分の考えをまとめ・記述する力の育成につなげるよう努めます。

【理科（小学校）】について

「B 生命・地球」区分における問題については、一定の成果がみられる一方で、「A 物質・エネルギー」区分における問題に課題がみられました。特に、「実験で得た結果」を基に考えることに課題がみられるため、実験結果の数値から分析した内容などを表現する場面の設定や、自らが考えた結論の根拠を説明する活動などの充実を図ります。また、さまざまな視点から実験結果や観察結果を検討する活動を通して、多面的に考えることができるように努めていきます。